

# 助産管理

助産管理

災害と助産

科目名	助産管理	科目責任者	池村 さおり
単位	1単位 (15時間)	開講期	前期
ディプロマポリシー	<input checked="" type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。		
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助産管理の概要について学ぶ。</li> <li>・助産業務にかかわる法律の概要を知り、助産師の法的責任と義務について、その意義を学ぶ。</li> <li>・周産期管理システム、産科病棟・産科外来・助産所の管理の実際を知る。</li> </ul>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 助産業務の管理、関係法規、周産期医療システムについて説明できる。</li> <li>2 法律や制度、社会保障について学び、母子が必要とする支援と結び付けて説明できる。</li> <li>3 助産所の管理・運営について説明できる。</li> <li>4 周産期における医療事故とリスクマネジメントについて説明できる。</li> </ol>		
講義計画	回数	講義内容	担当教師
	1	助産管理の基本 助産管理のマネジメント、助産と医療経済	池村さおり
	2	関連法規と助産師の義務・責任 助産師の法的責任と義務	
	3	周産期管理システム（チーム医療）・助産業務管理・院内助産 周産期医療事故とリスクマネジメント	
	4	助産所における助産業務管理・運営	玉川圭子
	5	産科棟の管理（看護体制など） 外来の助産管理（助産外来など）	松島しのぶ
	6	筆記試験	池村さおり
	7	演習「助産所を開設しよう」	
8	個人ワーク・発表		
評価方法	筆記試験（池村 70 点） 個人ワーク成果物・発表（池村 30 点）		
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我部山キヨ子編：助産学講座 10 助産管理、医学書院</li> <li>・日本助産師会編：助産業務ガイドライン 2019、日本助産師会出版</li> <li>・看護行政研究会著：令和 5 年度版 看護六法、新日本法規出版社</li> </ul>		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本助産師会：助産所開業マニュアル、日本助産師会出版</li> <li>・成田伸編：助産師基礎教育テキスト第 3 巻 周産期における医療の質と安全、 日本看護協会出版会</li> </ul>		
事前・事後学習	管理は、人・資源・資金等多岐にわたります。具体的な運営について学び、今後に活かしてください。		
その他 (ICT の活用)	医学書院 e テキストを使用します。 ワーク発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行います。		

科目名	災害と助産		科目責任者	稲川 由美
単位	1単位 (30時間)		開講期	後期
ディプロマポリシー	<input type="checkbox"/> 1 生命を尊重し、助産師としての倫理観と責任感をもち、対象と良好な人間関係を築くことができる。 <input type="checkbox"/> 2 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康・権利について理解し、助産実践に活用できる。 <input type="checkbox"/> 3 助産に必要な幅広い知識と技術を修得し、正常な妊産褥婦・新生児の診断について理解し、助産実践に活用できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 知識・技術を統合して、予期せぬ場面や対象の状況に合わせた柔軟な思考をもって対応ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 人々が住み慣れた地域で、どのような状況においても安心・安全に子どもを産み育てられる地域づくりに関わり、地域に貢献できる能力を養う。 <input checked="" type="checkbox"/> 6 専門職として常に自己の課題を見い出し、追及していくことができる。			
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日頃の危機管理がその後の対応のすべてにつながることを意識し、いつ起こるかわからない災害に備え、災害時の地域における助産師としての役割について学ぶ。</li> <li>・ 静岡市の災害対策・地域防災について知り、災害時の地域での母子支援活動の支援を考える。</li> <li>・ 災害時における支援について母体蘇生法等の演習を通して学ぶ。</li> </ul>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 静岡市の災害・防災管理の基本について学び、助産師の役割について説明できる。</li> <li>2 災害時の妊産婦に対する蘇生の方法について理解できる。</li> <li>3 災害時における母子支援について理解できる。</li> </ol>			
講義計画	回数	講義内容		担当教師
	1	災害サイクル各期における地域母子保健活動について		稲川由美
	2			
	3	行政の立場から 静岡市の災害対策・地域防災について		三田村亮佑
	4	地域の助産師の立場から 災害対策の視点から		小柳布佐
	5			
	6	災害時の母子支援について		中野玲二
	7			
	8	母体の蘇生（心肺蘇生、挿管、輸血）講義と演習		浅川陽介
	9			
	10			
	11	災害時の助産師の役割について 災害時の避難所・救護所を作ろう（グループワークと発表）		稲川由美
	12			
	13			
	14			
15	筆記試験			
評価方法	筆記試験（浅川 30点、稲川 45点） グループワークの成果物、参加状況（稲川 25点）			
指定図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我部山キヨ子編：助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健、医学書院（稲川先生使用）</li> <li>・ 日本助産師会：助産師が行う 災害時支援マニュアル、日本助産師会出版（小柳先生使用）</li> </ul>			
参考図書				
事前・事後学習	災害支援について、さまざまな立場から講義をしていただく機会です。知識と技術を身につけるとともに災害支援の意識を高めていきましょう。			
その他 (ICTの活用)	医学書院 eテキストを使用します。 グループ発表のプレゼンテーションはプロジェクターを利用して行うことがあります。			